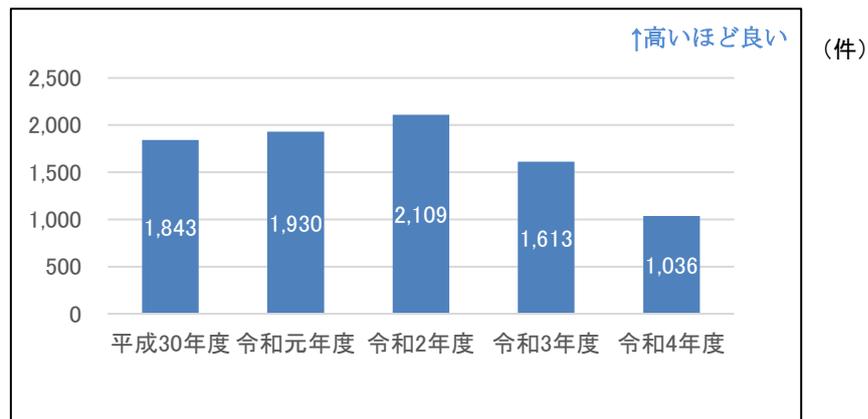


## 83 周術期口腔機能管理料算定数

### ○項目の解説

本指標を公表することで国立大学附属病院における医科歯科連携の比重を評価することができます。

### ○当院の実績



### ○当院の自己点検評価

周術期口腔機能管理とは、手術前後や抗がん剤等がん治療等を受けられる患者さんに対して、口腔ケア(口腔の清掃、機能訓練、口腔内病変の管理・ケア)を行うことにより、術後等の合併症の予防効果がある事が知られています。さらに、がん治療によって生じる口腔粘膜病変に対して治療を行い、その発症を予防する事で、経口摂取が継続できQOLの維持が格段に向上します。そのため、当院では、医科歯科連携により積極的に周術期口腔機能管理を行っており、患者数は新型コロナウイルス感染症による手術件数、入院患者数減少の影響により、前年度と比較して減少しています。令和4年中旬から、医療安全管理上の問題である全身麻酔患者の歯牙損傷防止のため、入退院センターでの口腔内診察および動揺歯の検査を開始しました。周術期口腔機能管理料算定要件の厳格化により算定できない患者も多く、実際の診療患者数が反映されておりましたが、今後対象患者の拡大および術前診察に歯科が関与する計画があり、周術期口腔機能管理料算定が増加する事が予想されます。

### ○定義

当該年度1年間の、周術期口腔機能管理料算定件数(算定延べ数)です。

### ○算式

実数